

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 9 日現在

機関番号： 15401  
 研究種目： 基盤研究（A）  
 研究期間： 2009～2012  
 課題番号： 21243045  
 研究課題名（和文） グローバル・スタンダードに基づくシティズンシップ教育の評価研究  
 研究課題名（英文） The evaluative study on Citizenship Education from the approach of  
 Global Standard  
 研究代表者  
 池野 範男 （IKENO NORIO）  
 広島大学・大学院教育学研究科・教授  
 研究者番号： 10151309

## 研究成果の概要（和文）：

本研究は、シティズンシップ教育を強力に進めているアメリカ、イギリスなどの欧米の各国、中国、香港、台湾、韓国、日本の東アジア各国・地域、シンガポール、オーストラリアのオセアニア各国の研究者が、統一的なグローバル・スタンダードに基づき、自国・地域のシティズンシップ教育に関する教育実践、カリキュラム、教育施策の3つのレベルにおいて、内部評価と外部評価とを行い、その効果性を判定し、国際比較を行うことを目的としている。

## 研究成果の概要（英文）：

The study of this project is the evaluative study on citizenship education from the approach of global standards. The Project outlines and processes, the project focuses on the evaluative study of citizenship education in each nation or region and held one international conferences in every year had four conferences. In every conference some academics and professionals from foreign countries or religions evaluate the state and status of citizenship education throughout the world and produce common global standards of citizenship education from the points of teaching practices, educational programs and policies.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	9,500,000	2,850,000	12,350,000
2010年度	8,600,000	2,580,000	11,180,000
2011年度	8,900,000	2,670,000	11,570,000
2012年度	6,200,000	1,860,000	8,060,000
年度			
総計	33,200,000	9,960,000	43,160,000

研究分野： シティズンシップ教育

科研費の分科・細目： 教育学・教科教育学

キーワード： シティズンシップ教育、グローバルスタンダード、評価研究

## 1. 研究開始当初の背景

現在、世界でも我が国でも、シティズンシ

ップ教育が注目され、いろいろな国で多様な形で実施されている。いま、シティズンシ

プ教育は世界各地で、実践中である。

本研究は、池野が研究代表者として平成17-20年度科学研究費補助金基盤研究(A)「我が国との比較を視点とした英国シティズンシップ教育の計画・実施・評価・改善の研究」、平成19-21年度萌芽研究「アジア的シティズンシップ教育とヨーロッパ的シティズンシップ教育の比較調査研究」、および、Ikeno(ed.), *Citizenship Education in Japan*(Continuum, 2009)の出版準備、その前書きを著する Bernard Crick および John Cogan との議論の中で直面した次の2つの研究課題を解決するために計画したものである。

○同じシティズンシップ教育といっても、多様であり、その多様性を意識し、区別することが必要であること

○多種多様なシティズンシップ教育の評価は十分に行われておらず、その教育効果が不明であること。

## 2. 研究の目的

本研究は、シティズンシップ教育を強力に進めているアメリカ、イギリスなどの欧米の各国、中国、香港、台湾、韓国、日本の東アジア各国・地域、パキスタン、イスラエルの西アジア各国、シンガポール、オーストラリアのオセアニア各国の研究者が、自国・地域のシティズンシップ教育に関して統一的なスタンダードに基づき、教育実践、カリキュラム、教育施策の3つのレベルにおいて、内部評価と外部評価とを行い、その効果を判定し、国際比較を行うことを目的としていた。研究目標：

- ①参加する研究者の合意の下、シティズンシップ教育の類型化を図り、グローバル・スタンダードを作る。
- ②グローバル・スタンダードに基づいて各

国のシティズンシップ教育を、教育実践、カリキュラム、教育政策の側面において内部評価と外部評価を行う。

- ③各国・地域の評価に基づいて、シティズンシップ教育の効果を判定する。
- ④世界におけるシティズンシップ教育の教育効果に関する地域的傾向性（アメリカ型、ヨーロッパ型、東アジア型、西アジア型、オセアニア型）を考察する。

## 3. 研究の方法

各国・地域のシティズンシップ教育を、4年次に分けて、評価を試みる。第1年次(2009年度)には、教育実践に焦点化し、その実施状況とその(内部)評価を試み、外部からの評価により、教育効果を判定する。第2年次(2010年度)には、カリキュラムに焦点化し、その実施状況とその(内部)評価を試み、外部からの評価により、教育効果を判定する。第3年次(2011年度)には、教育政策に焦点化し、その実施状況とその(内部)評価を試み、外部からの評価により、教育効果を判定する。第4年次(2012年度)には、総合的な(内部)評価を試み、教育効果の判定をし、効果のある点、問題点を析出し、地域的傾向性を考察する。

## 4. 研究成果

初年度では、次の5点の成果を挙げた。

- ① 2009年6月25-27日、香港教育研究院にて開催された第5回国際シティズンシップ教育(CitizED)会議において、海外研究協力者に研究計画を説明し、内部評価報告と外部評価報告を依頼し、協力を得ることができた。
- ② 2009年9月29日、日本教育方法学会の研究大会にて、シティズンシップ教育の現状と役割について発表し、日本のシティズ

ンシップ教育の総括を行った。

③ 2009年10月26-31日、中国、杭州師範大学で開催された社会科・シティズンシップ教育国際会議を通して、11月11-16日アメリカのNCSS研究大会を訪問して、11月26日-12月4日まで韓国の清洲教育大学、韓国教員大学、ソウル教育大学、釜山教育大学などを訪問し、内部評価者と外部評価者への説明と研究打ち合わせを行い、協力を取り付けた。

④ 2010年2月開催の第1回国際評価セミナーの実施要項を作成し、セミナーの外国語文評価資料を日本語に、日本語資料を外国語(英文)に翻訳し、会議資料を準備した。

⑤ 2010年2月16-19日に、キャンパスイノベーションセンター東京で、第1回国際評価セミナー(東京会議)を開催し、シティズンシップ教育の代表的な教育実践に関する内部評価会議を開き、シティズンシップ教育の教育実践評価に関するスタンダードを議論し、その成果をまとめた。

第二年度では、次の5点の成果を挙げた。

① 2010年7月2-4日、英国、セントアンドリュース大学にて開催された第6回国際シティズンシップ教育(CitizED)会議において、海外研究協力者に研究計画を説明し、内部評価報告と外部評価報告を依頼し、協力を得ることができた。

② 2010年9月開催の第2回国際評価セミナーの実施要項を作成し、セミナーの外国語文評価資料を日本語に、日本語資料を外国語(英文)に翻訳し、会議資料を準備した。

③ 2010年9月23-26日、キャンパスイノベーションセンター東京で、第2回国際評価セミナー(東京会議)を開催し、シティズンシップ教育の代表的な教育実践に関する内部評価会議を開き、シティズンシップ教育の教育実践評価に関するスタンダード

を議論し、その成果をまとめた。

④ 2011年2月28-3月6日、広島大学およびキャンパスイノベーションセンター東京で、釈迦か教科書国際セミナーを開催し、社会科・シティズンシップ教育における教科諸問題とその評価を行った。

第3年度では、次の4点の成果を挙げた。

① 2011年5月12-14日、米国、エモリー大学にて開催された第7回国際シティズンシップ教育(CitizED)会議において、海外研究協力者に研究計画を説明し、内部評価報告と外部評価報告を依頼し、協力を得ることができた。

② 2011年9月開催の第3回国際評価セミナーの実施要項を作成し、セミナーの外国語文評価資料を日本語に、日本語資料を外国語(英文)に翻訳し、会議資料を準備した。

③ 2011年9月14-16日、キャンパスイノベーションセンター東京で、第3回国際評価セミナー(東京会議)を開催し、シティズンシップ教育の代表的な教育実践に関する内部評価会議を開き、シティズンシップ教育の教育実践評価に関するスタンダードを議論し、その成果をまとめた。

④ 2011年12月11日、大阪教育大学で、全国社会科教育学会、韓国社会科教科教育学会と共催して、社会科・シティズンシップ教育の研究交流会を開き、シティズンシップ・社会科教育における諸問題とその評価を行った。

第四年度では、次の3点の成果を挙げた。

① 第4回シティズンシップ教育カリキュラムに関する国際評価会議を進めるために、2012年5月24-26日開催の第8回CitizED国際会議(英国:ヨーク大学)及びメールで発表者、参加者に確認したのち、国内研究者との研究打ち合わせを行い、第4回シティズンシップ教育に関する国際評価会議の出席者

とその準備をした。

② 第4回国際評価会議の実施要項を作成した上で、会議の外国語文評価資料を日本語に、日本語資料を外国語（英文）に翻訳し、会議資料を整え、2012年9月8-9日、キャンパスイノベーションセンター東京で、第4回国際評価会議を開催した。

③ その後、国内外の学会、研究会を活用し、外部評価をすすめた。とりわけ、11月14-18日、アメリカ、シアトルで開催される全米社会科教育協議会（NCSS）大会において、外部評価者への説明と評価打ち合わせを行い、評価を実施し、総括を行った。

本研究の結果と意義および世界的な研究発展・展開への可能性は、次の4点にまとめられる。

①シティズンシップ教育の世界規模の評価を行い、その評価基準となるグローバル・スタンダードを作り出すことができ、シティズンシップ教育研究の新しい研究基盤を構築する。

②シティズンシップ教育評価のモデルを作り出す。単に教育実践、カリキュラム、教育政策という3つのレベルの総合的評価だけではなく、当事者の内部評価とともに、外部の専門家によるチェックを行い、その評価の客観性を高める。

③世界のシティズンシップ教育評価地図を作り出す。評価地図は、どこでどこまでの効果を上げており、どの点に問題を抱えているのかを示し、地域的傾向性を明らかにし、シティズンシップ教育の地域的型、アメリカ型、ヨーロッパ型、東アジア型、西アジア型、オセアニア型を作り出すことができる。

④我が国を基本とした研究発信を行い、世界規模の研究推進を果たすことができる。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 2件）

1. Ikeno Norio, New Theories and Practice in Social Studies in Japan, Journal of Social Science education, Vol.11 Nr.2, 査読有, 2012, pp.24-38
2. 池野範男、解説 韓国、中国、アメリカの社会科教育の現状と課題、社会科研究、第76号、査読有、2012、pp.61-62

〔学会発表〕（計 5件）

1. Ikeno Norio, What forms of 'good' reasoning on education for ethics and values?, Character and Public Policy Educating for an Ethical Life Inaugural Conference of the Jubilee Centre for Character and Values, 13-14 Dec 2012, University of Birmingham School of Education, UK
2. 池野範男、社会科教師の授業力向上、ソウル教育大学学術講演会、2012年2月28日、ソウル教育大学、韓国
3. Ikeno Norio, Issues and Prospects for peace education in Japanese schools, Actes de la 2eme conference International Education, Economics et Societe, 23 July 2011, Hyatt Regency Paris Etoile, Paris France.
4. Ikeno Norio, Could we create a set of international / global standards in citizenship education?, The 7th International Conference of CitizEd, 13 May 2011, Emory University, USA
5. Ikeno Norio, In globalization of Citizenship Education, what make a difference between many countries and regions?, The 6th International Conference of CitizEd, 2 July 2010, St. Andrews University, UK

〔図書〕（計 1件）

1. Ikeno Norio(ed.), Continuum, Citizenship Education in Japan, 2012, 194pp.

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

池野 範男 (IKENO NORIO)

広島大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号：10151309

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者  
( )

研究者番号：